

研修医の手記

坂下 恭也



本年度4月より研修医として1年間市立釧路総合病院にて勤務させて頂き、坂下恭也と申します。この度はご挨拶の機会を与えて頂き、大変嬉しく、また光栄に思っております。簡単ではありますが、自己紹介を含めご挨拶させて頂きます。

私は旭川市の隣にある東神楽町出身です。救急科志望・札幌への憧れから、大学は札幌医科大学を受験しました。釧路市とはゆかりのある経歴ではありませんが、バドミントン部に所属していた大学時代に大会の主管があたり、釧路市で開催させて頂いたことがあります。その大会は医学部では最大規模の大会で、釧路市民の皆様を含め多くの方々の助けを借りたおかげで運営することができました。そのため、個人的には釧路市に特別な思いを抱いています。

また、私は札幌医科大学の所謂「地域枠」で合格しており、一定期間地域医療に従事するという確約があります。研修病院の選択に対し少なからず制約がある中で、道東の基幹病院でありながら自由度の高い研修体制に魅力を感じ、当院での研修を希望させて頂きました。

自身の至らぬことを痛感する毎日ではありますが、それと同時に先生方やコメディカルの皆様、そして多くの患者様からの温かいご支援の上に現在の自分があることを実感しております。今後は、この恩恵を少しでも返すことができるように、そして将来北海道の地域医療に貢献できるように精進していきたいと思っております。若輩者でまだまだご迷惑をおかけすることも多々あるとは思いますが、変わらぬご指導ご鞭撻の程頂けると幸いです。1年間何卒よろしくお願い致します。

エキスパートナース紹介 Part.12

みなさまこんにちは、緩和ケア認定看護師の大平です。2010年に緩和ケア認定看護師の資格を取得して早いもので6年が経過し、こちらの連携ニュースには2度目の投稿となります。認定看護師は5年に一度、資格の更新審査があり、昨年は5年目の更新をすることができ、緩和ケア認定看護師としての活動を続けることができています。

緩和ケアはがんによる心と身体の苦痛をやわらげ、自分らしい生活を送れるように支援する医療です。現在は消化器内科病棟での勤務と緩和ケアチームでの活動を行い、病棟スタッフや他部門のスタッフと一緒に日々悩みながら、患者さんや家族への意思決定支援や症状緩和、療養先の選択などの支援を行っています。当院は、地域がん診療連携拠点病院であり、がんの診断から治療、看取りまでを当院や地域で過ごす方が多くいます。まさしく当院は緩和ケアの考えが必要とされる医療機関と感じています。そのため、自分自身だけで緩和ケアを提供するのではなく、多くの医療スタッフの方が緩和ケアへの興味や知識を持ち、協力連携しながら行うことが大切だと感じています。また、患者さんや家族、一般市民への緩和ケアの普及が大切と感じています。患者さんや家族の方が、病気を抱えながら地域で安心して過ごせるように、緩和ケアの考えが広がるように私自身も活動を続けたいと思っております。そしていつでもどこでも緩和ケアが提供できるような医療が広がることを願っています。

緩和ケア認定看護師 大平 綾



ごあいさつ



市立釧路総合病院 院長

高平 真

当院の医療連携相談室が開設して7年目の春となりました。皆様にはあらためて日頃の医療連携に対するご協力に心より感謝申し上げます。

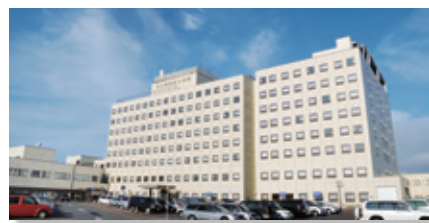
さて、昨年度より二次医療圏ごとに地域医療構想策定が義務づけられました。その意味や意義など十分に周知されず見切り発車の感は否めませんが、そのような議論の場ができ、地域の医療事情がようやくデータとして開示され、病床削減ありきの話ではなく、この地域の将来の医療・介護のあり方を考えるスタート地点に立ったものと捉えています。そうした中で当院がこの地域で果たすべき役割は地域完結型医療を守るため、主に高度医療の継続と考えておりますが、皆様のご理解とご協力なくして前に進むことはできません。

地域包括ケアを絵に描いた餅にしないためには病院目線の医療から介護や薬局などを交えた患者さん目線の医療・介護へと転換していくことが重要です。そのような時代の変化の中で今後とも様々な形での連携協力をお願いいたします。病院に対するご不満やご意見は病院改善への貴重な宝だと思っております。当院医療連携相談室を通して忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。



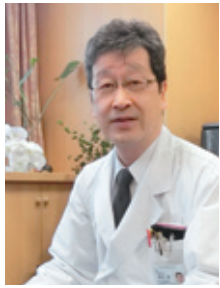
市立釧路総合病院 医療連携相談室

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号

TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

これからの市立釧路総合病院

市立釧路総合病院 院長 高平 真



市立釧路総合病院は明治5年（1872年）官立病院として設置され今年（2016年）で144年の歴史のある病院です。昭和59年（1984年）に、ここ春採湖を望む春湖台

に移転しました。

平成21年（2009年）に導入された道東ドクターヘリは今や当院の三次救急救命センターとしての役割に欠くことのできない存在となり、北網、十勝地域にも運航圏を拡大し広大な道東地域の救急医療を支えています。また、地域がん診療連携拠点病院、地方・地域センター病院、災害拠点病院などの指定を受け、高度医療の提供と臨床研修病院として教育研修に力を注いでおります。

さて、日本創成会議より消滅可能性自治体というショッキングな報告があり、その中に北海道の多くの自治体が含まれておりました。「人口予測ほど確実な将来はない」（ドラッカー）と言われるように、この地域の急速な人口減少を直視して迅速な対応が求められています。同時に、すでに実感されているように高齢化と老老介護、独居問題も深刻さを増しています。医療もその激流の中でアメーバのように姿を変えていくことが求められています。

そのような中で、国は2025年に向けた医療・介護提供体制を構築するために大きな制度改革をすすめ、地域包括ケアシステムの構築を提唱しています。その一環として今年度には北海道より地域医療構想がまとめられますが二次医療圏として十分な議論が尽くされたとは言い難いのが現実です。

今年は北海道新幹線の開業や道東道の延伸という嬉しいニュースがありましたが、この広大な地域で現在の医療資源では地域包括ケアの実現は厳しいと思われます。生活の重要なインフラである医療が地域医療構想のメッセージの受け取り方によっては地域医療の縮小をまねき、さらなる地域崩壊に拍車がかかることがないように医療計画とともにその内容に厳しい監視の眼を向けることが重要です。しかし、はじめて医療と介護を同時に議論する場が誕生したことは今後の展開につながる一筋の光明です。

一方、限られた医療資源を嘆いているばかりではいられません。釧路地域での地域完結型の医療を将来にわたって維持するために病院の機能分化と連携は、さらに進めていかなければなりません。そこで当院は昨年2月に「これからの地域医療を見据えた市立釧路総合病院の医療構想」をまとめました。当院の理念である「信頼と満足の創造」のもと、①救急医療の充実②災害医療の備え③周産期・小児科医療の充実④がん医療の充実⑤高度医療・チーム医療の推進⑥患者サービスの向上からなる6つの重点目標を掲げ将来に向けた市立釧路総合病院の役割と運営方針を検討しました。

東日本大震災やこのたびの九州での地震を教訓とし新棟建設に向け準備しているところです。釧路地域の34万人の住民の皆様が安心して生活をおくれるように地域の医療機関、介護施設や住民の皆様、行政とも今まで以上に連携を深め、日々の研鑽を怠らず、高度医療提供体制の継続と進化に努力してまいりたいと思います。

重ねまして、関係各機関のご理解とご協力をお願いいたします。

医療連携相談室のご紹介



医療連携相談室室長
高杉 好恵

今年度から、医療連携相談室長に就任いたしました高杉好恵と申します。

私は、昭和59年より6年間医事課職員として携わった経験があり、幣舞町の旧病院からの引っ越しも経験しました。26年ぶりの病院勤務に、この間所属しておりました国保・こども支援・納税課での経験を活かし、みなさまに安心・納得いただける医療サービスが提供できるよう「つなげる役割」としての医療連携相談室を大切にしていきたいと考えております。

①受診の予約や診療内容情報を整え「医療機関とつなげる」

紹介率や逆紹介率が医療連携の指針として注目されており、今まで以上に地域のかかりつけ医から紹介を受ける事、急性期治療が終了した後は、次の療養先へ円滑に移行して頂く等、今後も高い目標が求められていると感じます。

②退院後も安心して生活を送ることができるよう「地域とつなげる」

急性期治療終了後の転院先の確保、かかりつけ医・在宅ケア機関とのさらなる連携を図っていくために、各関係機関と密に連絡を取り合うことが、患者さんの安全・安心の生活へつなげると考えております。

③患者さんの困りごとの相談に乗り、「解決につなげる」

医療費のことだけでなく、総合的な相談、がん相談、苦情相談など、みなさまの申し出にきめ細かく応じられるよう各担当者とともに係わっていきます。

関係機関のお力添えのもと、更なる患者満足度の向上に努めてまいりますので、当室の積極的なご活用と、みなさまのご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



4月から異動になりました。
よろしくお願いします。

退院調整看護師
澤山 里美



未熟者ですが、お気軽に
ご相談ください。

社会福祉士
幸坂 諭諮



今後ともよろしくお願いいたします。